

2.1 蒲池の地すべり（位置 No.②）	
発生年月日	大同元年（806）
発生地点	新潟県糸魚川市大字蒲池
緯度・経度	36.9444, 137.8917
発生誘因	不明
天然ダムの形成	有 ・ 無
被害状況	人的被害：不明、家屋被害：不明
災害概要	糸魚川市役所（1977）によれば、「蒲池村は大地すべり地帯で、西側の山地に上条保・下条保（下上保）の集落があって、その足下から地すべりがはじまり、稲葉・上町屋の集落へ押し出し、三宮で終わっている。この地すべりは大同元年（806）と地元では伝承しているが、その地盤から発掘された埋れ杉を、放射性炭素年代測定したところ、もっと古く、2,000 年前頃とみられる。そしてその固まった土の上に、蒲池の四か字の村ができ、周辺にも小さな村がおいおいできた。」と記載されています。なお、現在は上条保という地名は残っていません。



位置図

国土地理院「標準地図」に加筆

◎蒲池の地すべり地

蒲池の地すべり地は、姫川右支根知川のほぼ中流左岸の山間地に位置し、標高 200～350mに至る山腹斜面です。西側背後は、北から順次城山、善光寺山、戸倉山などの一連の急峻な山峰が連なり、地すべり地周辺のなだらかな丘陵性山地とは趣を異にしています（写真 2.1）。

◎耕地と地すべり

中村（1964）は元根知村の村長から、新潟県西頸城郡根知村下上保・中上保・余所にわたる地すべり地は古来変動が多く、特に下上保ではほとんど毎年のように緩慢な移動を続けてきたという話を聞いています。その上で、蒲池の地すべりの影響として「耕地の広さにはさほどの変化は生じなくても、その位置がひどく変わることがあり、

例えば下上保のある住民所有の耕地は、地籍図の位置から約 80mも下方に移動したといわれています。また、急傾斜部にある耕地が後方から押出されて次第に傾斜を増し、ついに耕作不能になる場合もあります。また、隆起部が水利の便を失って荒廃するという変化も長年の間には起こります。そして土地台帳には歴然と存在しながら、事実はほとんど消失してしまったり、あるいはまったく荒廃に帰してしまっているものも稀ではありません。これとは反対に、次第に伸びて台帳面の坪数よりもずっと増大している場合も決して稀ではありません。」と述べています。

◎災害に関する祭りや信仰

姫川流域の長野県小谷村では、戸隠神社へお参りに行き、抜け止めの祈禱をお願いする習慣についての記録が残っています。笹本（1998）は小谷民俗誌を引用して「戸隠の坊で一泊して祈禱をお願いし、お札と杭を二本とか四本とかを受けて帰り、村人とお祭りをして、ぬけ止めの杭を亀裂の入っている要所に打ち込む、こうした信仰が、村人などに伝えられている。」と述べています。なお、小谷村の上手村地域の方によると、現在でも上手村地域では毎年5月末に戸隠神社に行っ

て抜け止め杭を受け取り、6月に杭を打っているそうです。

蒲池にも災害に関する祭りや信仰の記録は残っており、中村（1964）は「新潟県の蒲池では8月17日には鹿島の神を祭る祭礼となっている。また、4月12日には戸隠の神を祭り、さらに毎年戸隠神社の札をうけるそうである」と述べています。なお、鹿島の神様は地震鎮定の神様として有名です。その他にも、蒲池村では明治5年（1872）に地震祭が行われた記録があります（糸魚川市役所，1984）。



写真 2.1 蒲池の地すべり地全景（三宮橋より），2020年撮影



図 2.2 蒲池地すべり (地理院地図に加筆)

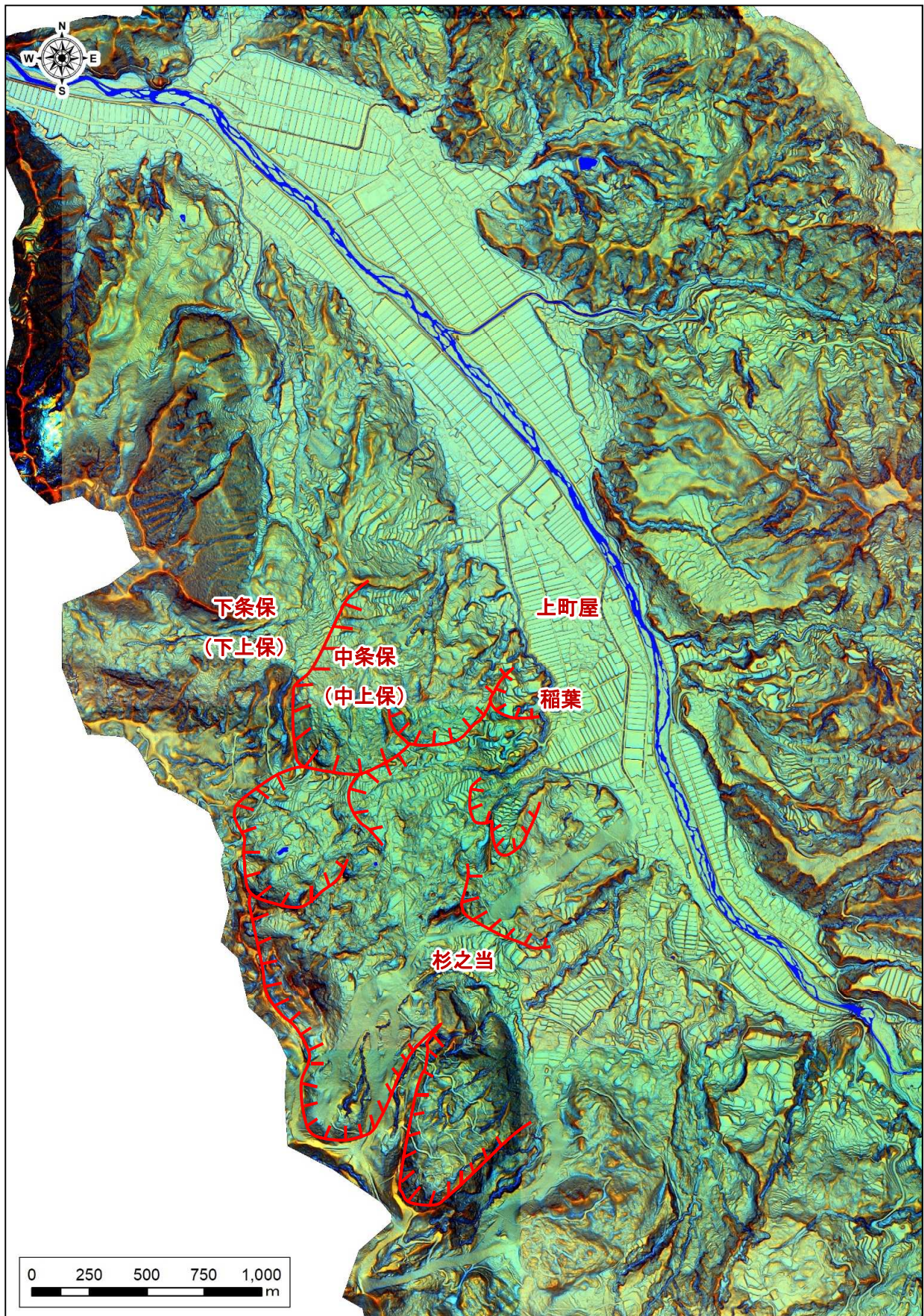


図 2.3 蒲池地すべり